

教育なかの

平成25年度 夏号
中野市教育委員会
平成25年8月発行

教育を拓く知恵

- 1 平成25年度重点施策の内容について
- 2 小学校英語教育の現状について

市教育委員会では、本年度の重点施策を5つに絞り、その内容については、『教育なかの』5月号でお伝えしました。

8月号では、そのうちの2点について、主な内容を報告します。

安心・安全な学校 づくりについて

子どもたちが、毎日楽しく充実した学校生活を送るためには、居心地の良い学級集団や快適な学習環境づくりが大切です。

そのために、市教育委員会では子どもたちのために次のことを支援しています。

○子どもたち一人一人が 位置づく学級を目指して

- ・子どもたちが、毎日安心して学校で学習できるようにするために、学級というひとつの集団の中で、子どもたち一人一人が相手を思いやる気持ちを持つことが大切です。
- ・学校だけでなく家庭の皆さんとも協力しながら、子どもたちと一緒に進め

ています。

- ・担任の先生も、子どもたちの成長を願い、一人一人の気持ちをくみ取りながら、何でも話せる開かれた学級を目指して取り組んでいます。

○学校の主な設備工事について

- ・地震に対する防災対策が急がれています。市内の小中学校でも防災機能強化ということから、今年度より体育館の非構造部材の耐震化工事と窓ガラス飛散防止工事を3か年計画で進めています。

- ・夏の暑さにより、子どもたちの学習能力が落ちないように、酷暑対策としてエアコン（5か年計画）やミストシャワー（3か年計画）の設置を、順次進めています。

学ぶ「ちから」の 育成について

子どもたちが将来に向かって主体的に学び続けていくためには、そのための基礎・基本となる学力が定着していかなくてはなりません。

○日々の授業改善について

中野市内の全小中学校では、子どもたちの基礎・基本となる学力が身につくよう、教師自身が工夫しながら日々、授業改善に取り組んでいます。

授業改善とは、子どもたちにとって分かりやすく、しかも主体的に学ぶことができる授業を仕組むことです。一般的な指導方法というものはありますが、目の前にいる子どもたちは一人一人の顔かたちも違うように考え方や動き方もいろいろです。

その子どもたちも日々変化していますから、先生も日々授業の仕方を工夫しながら取り組んでいます。



▲授業風景



▲ブドウ農家で農業を学ぶ

○地域から学ぶ

小中学校では、地域から学ぶことを大切にしながら、地域の自然や人々から多くのことを学んでいます。

教えてもらったり、一緒に学ぶことを通して、子どもたちが主体的に学ぶ「ちから」を身につけています。

例えば地域の農業を学ぶ場面では、農業に携わる方から、どのような工夫をしているのか、またどのような苦労をしているのかなど、実際に農家に行き、お話を聞きます。

農家の人と直接お話を聞くことで、子どもたちは課題を見つげながら学ぶことができます。

小学校外国語教育の現状

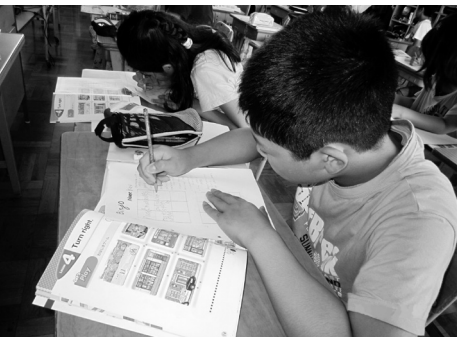
英語の時間が待ち遠しいなく

期待を込めて始まった小学校5・6年生への外国語授業が3年目を迎えました。成果と課題を振り返ってみます。1回目は、現在行われている授業の様子をお知らせします。

誰が教えているの、目標は

目標は、英語の基本的な表現に慣れて、聞いたり、話したりできるようになる下地を養うことです。基本的には学級担任が週に1時間教えることになっています。

文部科学省では小学校5・6年生全員に、英語の本「Hi, Friends」を配布しています。学級担任はこの教材本を中心に英語を教えています。



▲英語でビンゴゲーム

この本は、英語圏の人々が日常生活でとてもよく使い、応用範囲の広い文型と単語を選び抜いた、英語感覚を養うにはとても良い教材です。初めて英語を教える小学校教諭が安心して教えられるように、導入の例も入っています。

担任は、絵や身振りを使い、英語のやりとりで授業が進むように配慮をしたり、楽しく学べるように英語ゲームを多く取り入れ授業を進めています。しかし、担任の先生によると、つい英語の意味が分かっているのか心配して、日本語で説明や確認をしてしまうことが多いそうです。

市内の小学校ではその他に、AET(母国語が英語の国の出身で授業を補助する助手)や、中学校の英語教諭が小学校を訪問して教えてくれる時間もあります。

ここは日本じゃないみたい

3人の市採用のAETが、英語を教えています。主に中学校で教え、各小学校には、月に1回教えに行きます。

AETはとても明るく、いつも声を掛けてくれるので、児童はAETのことが大好きです。

廊下で擦れ違ふと、まるで友達のように学んだ英語で会話をしていることがあります。小学校にAETがいると、欧米の学校のようにです。

授業は、AETが中心になって進め、児童は英語を楽しく身につけていきます。挨拶から英語です。「How are you?」児童は大きな声で、「fine, thank you.」声の出ない子にAETは「Are you hungry?」児童は「こりうなずきます。そこで全員で、「hungry」と声を出して覚えていきます。

同様に「tired」「sleepy」も動作で覚えてしまします。そしてついには、「I am hungry.」から「We are hungry」と、まるで魔法に



▲廊下でAETと英会話

かかったように、人稱にまで広がっていきました。

中学の先生って迫力あるなあ

小中学校連携で中学校英語教諭が、月に2回、小学校に出向いて英語を教えている中学校区があります。

「Hi, friends」を英語教諭が中心になって教え、学級担任は補助者として活躍しています。

その場の状況で英語の意味が分かるように工夫されていて、しかも中学校の英語と同じようにスピード感あふれる英語です。児童は中学校に行っても、スムーズに英語学習に慣れることでしょう。

英語の時間が待ち遠しい

小学生は英語の授業がとても楽しそうです。授業後に感想を聞いてみました。

すると「英語のゲームや歌が楽しい」という声が返ってきます。「少しずつ英語が話せるようになって楽しい」という児童の声も聞かれ、どの子の表情も輝いて見えました。次回では、このように児童が意欲的に学んでいる英語の授業の成果と、今後の課題に触れてみます。

教育委員会の主な活動

10月	9月	8月
18日 長野県市町村教育委員会連絡協議会(研修会) 長野県都市教育委員会連絡協議会	18日 定例教育委員会	21日 長野県市町村教育委員会連絡協議会(新任教育委員研修会)
16日 県教委と市町村教委の連絡会	9日 県教委と市町村教委の連絡会	下旬 定例教育委員会
9日 第3回教頭会	18日 第4回校長会	
8日(後期)長野県都市教育長協議会	1日 学校訪問(日野小・延徳小)	
7日 学校訪問(高社中)		
下旬 定例教育委員会		